

伝統の架け橋は

未来への入り口

今つき晋^{すす}め

その先にある

賀^{よろこ}びを掴むために



左から 川野会長、射手・橋口晋賀くん、父・橋口晋也さん

900年以上の歴史をもつ「高山流 鎗馬」が10月19日に行われました。

今年の射手は橋口晋賀くん(13才)。8月9日に流鎗馬保存会から依頼を受け、正式に射手に任命されました。子供の頃から流鎗馬を見てきた晋賀くんは、射手の姿に憧れを持っており、自分で綾蘭笠(あやいがさ)を真似て作ったこともあるそうです。射手に任命された時の気持ちを伺うと、「不安もありますが、伝統行事を続けられるように射手としてがんばりたい。」と語ってくれました。父の晋也さんは「コロナの影響も心配されるが、本人のやりたいという気持ちを尊重し、応援したい。」と話していました。

9月4日、旧大隅線跡で本番に向けての安全祈願祭と初練習が行われ、晋賀くんの挑戦が始まりました。実は動物が苦手だという晋賀くん。実際に馬に乗った感想を聞いてみると「思ったより高くて緊張します。最初の走りです張せずにやることを目標にこれからの練習をがんばりたい。」と不安な様子を見せながらも今後の意気込みを語っていました。練習では、昨年まで神馬を務めた「流星号」と、今年から新しい馬「みらい号」の2頭で行い、本番ではみらい号を使用することになっていました。みらい号は若い馬ということもあり、走るスピードが速く、綱持ちで